

秀麗富嶽十二景を歩く 第六回 雁ヶ腹摺山1874m 姥子山1503m(会山行)

(報告)F澤ゆ

◎ 日程:2018年 5月27日(日)

◎ メンバー:F澤ゆ(L)S藤さ、I上、S井、F野、S野

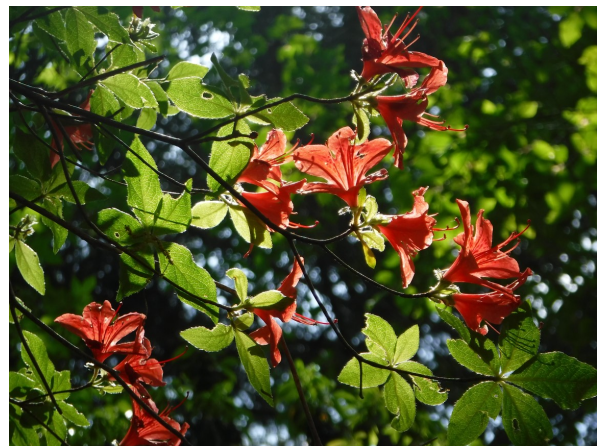
今回は一番の「雁ヶ腹摺山」1874m。同じ一番の「姥子山」1503mです。晴天ですが、春霞がかかっています。

この山はなんとと言っても五百円札にのっていたあの端正な富士山。1951年発行の五百円札にここからの展望が使われたことで有名になったそうです。「雁が腹をするようにして超える」ことからこの名前が付けられたとされています。

JR大月駅で6名が顔合わせ。予約したタクシー2台に乗り登山口の大峠着。今は、ここまで車が入ったので日帰り登山ができます。しかし、11月下旬から4月下旬まではゲートが閉鎖。車が使えないので、冬場は一泊でしかこの山を訪れることができません。

大峠から約一時間で山頂です。春蝉が五月蠅い。カエルの鳴き声も負けていません。雁ヶ腹摺山山頂付近はミツバツツジが満開です。南面が開け、遮るものがなく富士山が眺められるはずでしたが、この日は生憎の春霞。まったく展望がありませんでした。山頂には五百円札の写真のパネルもあり、この山がいかに五百円札に依拠しているかがわかりました。山頂では子連れの家族が食事中。ゆったりとした山頂です。

ここから約300m下り姥子山に上ります。この山は「うばこやま」「おばこやま」「おぼこさん」などと呼ばれています。名前に負けず、高度感が有り、360度の展望もある独立峰の趣のある良い山です。南側に



トウゴクミツバツツジ



姥子山の山頂。



500円札の雁ヶ腹摺山の展望。

セーメーバン(清明盤)1006mが望まれま
す。北側に雁ヶ腹摺山がそびえています。

皆さんで雁ヶ腹摺山をバックに写真を撮りました。

ここから金山鉱泉「山口館」までの下りは約3時間。けっこうな荒れた道でした。ほとんど人が歩いていない道です。午後3時に「山口館」。一軒宿です。予約していたので熱い湯が待っていました。ここは明治時代から続く旅館。今のご主人は四代目だそうです。女将さんに伺うと、「今は大峠まで車が入るようになったので、雁ヶ腹摺山の日帰りができるようになり、皆さんここに泊まらなくなりました。」と語っていました。風呂から上がり、吐き気でビールを呑んでいると、美坂哲男さんとの集合写真が飾ってあるのが目に止まりました。美坂さんは日本中の3049か所の温泉に入りまくり、2003年に亡くなっています。私も「日本100名湯」(上)(下)の愛読者でした。この写真は1992年頃でした。女将さんは「美坂さんは亡くなる前も良く来ていましたよ」と語っていました。白旗史朗さんの額など、この旅館にご縁のある方々の記念も残されている渋い旅館です。「もう私の代で終わらさうね」と寂しいことを言っていました。何とか続けてほしいと思いました。

《コースタイム》

5月27日(日)

9:00 JR 大月駅発—(バス)—9:45 大峠—10:45 雁ヶ腹摺山 1874m 着
—12:00 姥子山 1503m 山頂着・昼食—13:30 金山峠
—14:50 金山鉱泉「山口館」着 入浴 14:30 発
—遅能戸(おそのうと)着 17時09分—(バス)17:30JR 大月駅着